

人間文化研究機構国文学研究資料館

令和5（2023）年度第4回運営会議 議事要旨（案）

- 【日 時】 令和6（2024）年2月22日（木） 13：30～15：30
- 【場 所】 オンライン会議「Zoom」
- 【出席者】 安藤、入口（議長）、海野、大隅、大谷、大山、落合、川平、神作、久富木原、倉員、齋藤、佐々木（副議長）、高埜、張、西村、藤實、山本（和）、山本（聡）の各委員
- 【欠席者】 高田、ヒューイ、山地の各委員
- 【陪席者】 渡部館長、島崎管理部長、笠原総務課長、姫野財務課長、片岡学術情報課長、その他関係職員

議事に先立ち、渡部館長から挨拶があった。

続いて、笠原総務課長から、会議の定足数について、運営会議委員22名のうち、外国出張による欠席者は0名で、過半数12名以上となり、17名出席（最終的には19名出席）しているため定足数を満たしている旨の報告があった。

令和6（2024）年1月1日付で着任した菊池信彦准教授から挨拶があった。

- 【運営会議議事要旨確認（第3回令和5（2023）年11月2日）】
原案のとおり了承された。

【報告事項】

- 1 大規模学術フロンティア促進事業「データ駆動による課題解決型人文学の創成」について
(資料3)

入口議長から、資料3に基づき、「データ駆動による課題解決型人文学の創成」プロジェクトを令和6年度から開始すること、新たに副題を付けたこと、作業部会からの課題・留意点への対応状況などの報告があった。

【審議事項】

- 1 国文学研究資料館改組について (資料1)

神作委員から、資料1に基づき、「データ駆動による課題解決型人文学の創成」プロジェクトの開始にあたり、収集業務の機能強化を図るため、デジタル画像データの収集業務を一元的に担う「基盤データセンター」を新設すること、及びプロジェクトを着実に推進するため、「プロジェクト推進室」を新設するとともに既存の組織を見直すこととし、令和6（2024）年4月1日付で改組することの説明があり、審議の結果、原案のとおり了承された。

- 2 名誉教授の候補者について (資料2、取扱注意資料)

入口議長から、資料2及び取扱注意資料に基づき、落合博志教授への名誉教授称号授与について、候補者の経歴や選考過程等の詳細な説明があり、可否投票の結果、了承された。

【報告事項】

2 第4期中期計画に係る自己点検・評価結果（令和4年度）について（資料4）

神作委員から、資料4に基づき、人間文化研究機構で第4期中期計画に係る自己点検を実施したこと、及び自己点検結果を人間文化研究機構外部評価委員会に報告し意見を求めた旨報告があった。

久富木原委員から、外部評価委員会による所見に記載がある御意見はもっともであり、数値化できない部分の評価をどのように評価に反映していくのかとの質問があった。

神作委員から、機構内において人文系の評価指標を検討するワーキング等を継続的に開催して議論していること、及び論文数だけでなく研究成果の展示なども反映されるような定性的な評価をするよう働きかけている旨回答があった。あわせて、当館においては、令和6（2024）年4月1日付でIR担当の特任准教授を採用後に、組織としてどのように対応すべきか検討していきたい旨説明があった。

3 日本学術振興会「研究環境向上のための若手研究者雇用支援事業」について（資料5）

神作委員から、資料5に基づき、日本学術振興会特別研究員（PD等）について、受入先での雇用を可能にする日本学術振興会「研究環境向上のための若手研究者雇用支援事業」に、当館として登録申請した旨報告があった。

山本（聡）委員から、本務校では、昨年10月から雇用を開始し、現在16名を雇用しているが、研究室の確保など研究環境の整備等に課題があり、参考として国文研の状況を教えてほしいとの発言があった。

神作委員から、当館では、研究室は個室ではなく共同利用研究室を割り当てることを応募時点で説明することとしており、パソコン等の情報機器の整備は科学研究費補助金特別研究員奨励費で賄うこととしている旨回答があった。あわせて、人間文化研究機構としては、特別研究員（PD等）の任期を超えての雇用予定はないことを応募時点で説明することとしている旨回答があった。

本件に関して、渡部館長から、何らかの事情により特別研究員（PD等）の任期に中断期間があった場合の取扱い等について、何か御意見や実例等があれば御教示いただきたい旨発言があった。

大隅委員から、本務校では、優秀な若手研究者に応募してもらうため、本事業で交付される支援金に大学として独自の加算をした給与額で雇用する取組を行っている。また、雇用期間終了後、一部の方は、若手研究者支援を目的の一つとしている学内の研究所の研究員として応募してもらうことや、研究環境の整備や雇用に係る経費が確保できれば、雇用を延長する場合もある旨説明があった。

4 令和6（2024）年度国文学研究資料館予算（案）について（資料6）

姫野財務課長から、資料6に基づき、令和6年度予算内示額は、基幹運営費として約9億7千6百万円、ミッション実現加速化経費として約3億8千万円、合計約13億5千6百万円となっている旨説明があった。

5 その他

（1）今後の催し物について（資料7）

入口議長から、資料7に基づき、令和5（2023）年度及び令和6（2024）年度の催し物について報告があった。

【当館へのご意見等】

久富木原委員から、研究成果が査読誌に掲載されたことについて、論文名等を御教示いただきたいとの質問があり、会議終了後に、執筆者、雑誌名、論文名等を回答した。

また、同じく久富木原委員から、日本古典籍を対象とした用語の多言語化の検討について、具

体的にどのような言語を検討しているのかとの質問があり、藤實委員から、英語とフランス語の検討を進めており、将来的には中国語、韓国語にも広げたい旨の回答があった。

高埜委員から、改組により4月から新しいフェーズに入っていくと思われるが、今後もアーカイブズ・カレッジを機能させていただきたい旨意見があった。

海野委員から、前回の本会議で御意見をいただいた閲覧室の開室日の要望について、館内で検討した結果、新型コロナウイルス感染症発生前の開室状況に戻す旨報告があった。

令和6（2024）年3月31日付で定年退職となる落合委員から挨拶があった。

委員の任期が今年度末で満了となるため、渡部館長から委員の方々へ御礼の挨拶があり、続いて、退任する館外委員（大隅委員、大谷委員、佐々木委員、高埜委員）からそれぞれ挨拶があった。

渡部館長から、来年度の本会議の開催予定について、以下のとおり案内があった。

第1回 令和6（2024）年 6月26日（水） オンライン開催

第2回 令和6（2024）年10月22日（火） 当館において対面での開催

第3回 令和7（2025）年 2月21日（金） オンライン開催

以上